

令和2年度第2回東温市総合教育会議会議録

開会の日時及び場所 令和2年11月11日(水) 午前10時00分
東温市庁舎 4階 405会議室

議事に出席した委員	東温市長	加藤 章
	教育長	池川 仁志
	教育委員	本田 隆彦
	教育委員	水岡 明美
	教育委員	清家 隆夫

議事に出席した職員	教育委員会事務局長	池田 隆太
	総務課長	田中 聡司
	学校教育課長	橋本 武
	保育幼稚園課長	山本 健吾
	生涯学習課長	河端 徳明
	学校給食センター所長	近藤 照雄
	学校教育課長補佐	渡部 昌弘
	学校教育課指導主事	橋本 英樹
	保育幼稚園課長補佐	近藤 和明
	生涯学習課社会教育係長	戒能 耕児

傍聴人 (2名)

1 開会宣言 (10:00)

池田事務局長 開会を宣す。

2 市長あいさつ (10:00)

加藤市長 私が議長を務めさせていただきます。本日は2人の方が傍聴を希望される方がおられますが許可してよろしいでしょうか、お諮りします。

委員 異議なし。

加藤市長 それでは開会に際しまして一言ご挨拶を申し上げます。

第2回東温市総合教育会議を招集しましたところ、教育委員の皆様にご参集いただきまして会議が開催されますことに対して厚くお礼を申し上げます。

現在の新型コロナウイルスの感染症拡大につきましては、国内ではご案内のようにまだまだ多くの感染者が出ておりました微増ではなく増加傾向にあると思っております。本市におきましては、これまで同様に万全の対

策を取りながら教育行政活動を進めてまいりますので、委員の皆様方におかれましては引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、前回第1回の総合教育会議では、大綱の改正に向けまして重点施策の方向性等についてご協議をいただきました。本日は委員の皆様からご指摘いただきました大綱の内容につきまして事務局において加筆修正しましたので、後ほどご意見を頂戴したいと思っております。

特に、少子高齢化、人口減少問題では、ご案内のように平成17年の本市の国勢調査では、35,278人から5年後の22年にはマイナス25人、更に27年の国調ではマイナス640人、今では34,613人と記憶しておりますが、こういった減少傾向が続いております。実際の自然増減、社会増減につきましては、これの減少傾向を社会増減の方が支えてくれていると思っております。こういった対応に子育てから生涯学習まで包括する教育行政の果たす役割は非常に大きいものと思っておりますし、現在、策定を進めております第二次総合計画後期基本計画と整合性を保ちながら大綱の策定に向けまして全力で取り組んでまいり所存でございます。

このような状況の中、この会議におきまして本市の状況と将来展望を踏まえて学術及び文化振興の総合的な施策の目標、また、根本となる方針につきまして委員の皆さんと十分にご協議を進めていきたいと考えております。また、先ほど触れましたがコロナウイルス感染症の拡大によりましてすべての社会生活に大きな影響を受けております。本市におきましても特に子どもたちの学校休業、社会体育施設等におきまして、本市独自の高齢者や子ども達を守るために他の市町よりやや厳しい制限を加えさせていただきましたが、こういった中でコロナ化における教育活動につきまして、皆様方のご意見をいただきたいと思います。

本日はよろしくお願い申し上げます。

3 議題

(1) 教育大綱の見直しについて

加藤市長 事務局より説明をお願いします。

池田事務局長 教育大綱の趣旨、位置づけ等について説明を行う。

加藤市長 1ページの趣旨、大綱の位置づけ等について委員の皆さんのご意見ををお願いします。

本田委員 大綱の位置づけで、国土強靱化地域計画が入ったために大綱の内容について変更した箇所があれば説明をお願いします。

渡部補佐 学校教育課所管のⅡ－２の安全・安心な教育環境の整備の目指す方向「学校施設の老朽化に伴う大規模改修工事を推進し、安全で安心して学べる教育環境の整備に努めます。」が関係してくる部分になります。

加藤市長 次に２ページから１９ページを第１回総合教育会議での委員の皆様からの意見に基づき修正しておりますので、ご意見がありましたらお願いします。

本田委員 Ⅱ－１目指す方向の「将来に向けた地域における学校のあり方など、」の文章が宙に浮くような感じがして「地域の方の意見を参考にして」を削除したら文章が繋がらないと話をさせてもらいましたが、よくよく考えてみると宙に浮いた文書を直した方が良いのかと思い、前言を翻して申し訳ありませんが、例えば「将来に向けた地域における学校のあり方などを探求し（検討し）」、「地域の実情に応じた学校づくりを進めていきます。」とした方がすっきりするかなと思いました。

加藤市長 今のご提案について事務局どうですか。

橋本課長 事務局としては、つながりの良い文章になると思いますが、他の委員さんはどのように思われますか。

加藤市長 特にご意見がなければ、事務局の方で調整させていただきますがよろしいですか。

委員 異議なし。

加藤市長 他にございませんか。

本田委員 １７ページⅣ－４目指す方向の３行目、「一人ひとりが大切にされる…」は、朱書きで修正されていますので、削除した方が良いと思います。

河端課長 委員ご指摘のとおり２行を削除させていただきます。

加藤市長 ２行を削除します。他にご意見はありませんか。

清家委員 ５ページⅡ－１の４「一人一人」の表記が他ページの「一人ひとり」と統一されていない。６ページのポイントの大規模改修工事については、上記で「老朽化に伴う大規模改修工事」になっているのでどうかなと思うが。このままでも構わないかなとも思います。

４ページの現状と課題の３段目の「そこで」を削除していますが、必要ではないか。例えば、「このような」とか「そのような中」とすれば、文章のつながりができるのではないか。

直接関係はないが、小中学生の読書活動は大事であると学力検査などの結果を踏まえて考察がなされているが、読書は相当な力になると思っている。読書感想文や作文等の優秀な作品を全市の子どもたちの目が行くようなコンクールのような形で発表し、表彰するような取り組みはできないか。

加藤市長 3点ほどご質問・ご意見があったと思いますが、「一人一人」の表記は調整してください。4ページの接続詞について説明をお願いします。

山本課長 本日のご意見を受けて、削除するか、他の接続詞を加えるか改めて検討させていただいて判断させていただきます。

橋本指導主事 読書感想文や読書感想画のコンクール等は実施しています。表彰も行っています。

渡部補佐 昨年度、県PTA連合会主催で3行詩を出品して表彰も行いました。

水岡委員 9ページⅡ－5特別支援教育の充実のインクルーシブ教育は、学校だけでなく地域の人の理解も必要であるので、「地域の方も含めて」という表現をどこかへ加えたらどうでしょうか。

橋本課長 インクルーシブ教育の推進については、学校、家庭に地域の協力も必要であると思いますので、どこへ加えるか検討させていただきます。

池川教育長 インクルーシブ教育をどのように進めていくか、これからの教育の核になってくると思っています。人権教育とも関わってきますので、ご指摘のありました地域とどのように連携を図っていくかを構想しながら今後の検討課題とさせていただきます。

加藤市長 他にありませんか。

本田委員 国土強靱化地域計画を関連付けしている割には内容が前回と同じであるので、多少なりとも加味して変更してもよいのかなと思います。例えば「減災意識の向上」とか「災害対応能力の向上」のように表現したらどうでしょうか。

加藤市長 国土強靱化地域計画も東温市総合計画と同じ位置づけで、国土強靱化地域計画の3年計画が令和2年で終了するため、次の計画と総合計画、教育大綱と並行して進めているところであるため、連携しながら策定する必要があります。

なお、実施計画では具体的な場所や施設の内容を示すことができると思いますが、これに関連して事務局から説明をお願いします。

橋本課長 国土強靱化地域計画と同時期に教育大綱を見直すことになりましたが、総合計画と並ぶ国土強靱化地域計画を策定したことにより、それを踏まえた上での大綱であるということを強調できたらよいと思っております。どのように入れるかについては検討したいと思います。

加藤市長 国土強靱化地域計画の一番の基本目標は4つあり、まず、人命の保護を最大限に扱うこと。2番目が市又は地域の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持されること。3番目が市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化。4番目が迅速な復旧復興となっております。今ご指摘がありました教育施設、公共施設もこの範疇で対応していく必要があります、そのための準備もしておく必要があると思っております。

他にございますでしょうか。それでは、時間も経ちましたので教育大綱のご審議はこれで終了させていただきたいと思っております。なお、本日も指摘いただきました語句等については検討の上調整したいと思います。

それでは次にコロナ化における教育活動について事務局から説明をお願いします。

(2) コロナ禍における教育活動について

池田事務局長 趣旨を説明する。

加藤市長 新型コロナウイルス感染症対策は長期間に及ぶと思っておりますので、子どもたちを守りつつ、経済も動かしていかなければならない。両方のアクセルを踏むような国においても様々な議論がなされていますが、各委員の皆様のご意見を伺います。

水岡委員 学校が休業になったときに、親として学習の遅れの心配をしていたが、学校からプリントを配布してくださり安心したものの、ICT教育が進んでいけばもっとよかったなと感じました。今は学校へ行くのが当たり前の生活が戻り安心はしていますが、子どもたちだけではなく先生方も初めての経験もあり、ストレスを抱えているのではないかと思います。火曜日と木曜日は7時間授業をしており、休み時間も無くなり先生方も忙しいのではないかと思います。また、中学校の部活では、3年生には大会らしきものを実施していただいたが、中途半端で終わり、保護者も入場制限などで見に行くことができないなどの状況であるので早く元の生活に戻ってほしいと考えています。

橋本課長 休業中の学習の保障につきましては、最低週に1回は家庭訪問をして声をかけるなどしてもらっております。手探りの中での対応だったかと思っております。学校が再開されても夏休みの短縮や7時間授業など先生方も戸惑いながらストレスを抱えながらやってもらっているのが現状だと思います。

I C T教育について、G I G Aスクール構想で急遽1人1台端末という国の方針により来年4月から本市も整備できる予定であることから、コロナ禍においてはもちろんですが、有効活用して教育活動を充実させていきたいと考えております。

本田委員

学校が再開されても子どもたちの制限も大きく、ストレスをため込んでいくと思うのでメンタル面のサポートも長期的に行っていく必要があるのではないかと思います。

コロナ禍で子どもたちの学習の中で人と人とのつながり、体験活動の機会が大幅に制限されてしまったということがあるのではないかと思います。以前、学校と学校、集会所間の通信システムがあったと記憶しているが、学校間でのやり取りでも使ったことがあります。準備等が大変なこともあって頻繁に活用できなかつた経緯があります。今回タブレットが子ども全員にいきなり充実していくと思われませんが、人と人、他校とのつながりが簡単にできるようにシステムの整備も必要ではないか。それができれば直接交流しなくてもバーチャル的ではあるが体験活動も可能になるのではないかと思います。

I C T環境が進んでいけば学校だけでなく、一般の方々への生涯学習の機会や健康づくりなどの情報提供もできるのではないかと、また、いろいろな会議が中止になったと思いますが。そういったものが進めばこれから会議もできるのではないかと思います。

今回のコロナウイルスは、ワクチンができれば一旦収束すると思いますが、また新しいウイルスが発生する可能性もありますので、先先の対応が必要だと思っております。

もうひとつは、感染予防対策に先生方が多くの時間と労力を奪われ大変だったと思いますが、効率的に予防ができるような施設設備の技術が必要ではないか、スーパーなどでは感知式で消毒できるような設備があり、カメラで体温が測れるような設備があれば先生方の負担軽減につながるの、設備の充実を進めていく必要がある。また、合わせてI Tの専門家や感染対策の知見を持った専門家など人を配置していくことも必要ではないかと思っております。

橋本課長

以前は、地域イントラを整備していたが、現在は稼働していない。他校との交流については、今後も検討していきます。

教育全体では対面学習が基本ではないかと考えているが、コロナ禍の状況では、バーチャル的なものも必要であるし、パソコンを通しての人と人とのつながりも大事な課題であり、重要な検討材料の一つであると思っています。

感染防止対策については、学校も手間を取られたのは事実であり、カメラ等設備の充実によって効率的に予防できると考えている。対策における専門的な人員の配置については、今年度県の補助事業で学校教育活動支援員を派遣しているところで、例えば学校の保健室の支援を行うような業務

を補助している。ICTの専門人については、1人1台端末の整備により、先生方も手を取られることがあると想定されるので、検討していく必要があると考えています。

池川教育長 今年度、小学校が導入し来年度中学校が予定している学校運営協議会（コミュニティースクール）がコロナ禍でどのような役割を果たしているか、教育委員会がどのような支援ができるかということも含めて説明させていただきます。

新型コロナウイルスは、今までに経験がなく、まだまだ収束の見通しが立っていません。学校において、教職員を中心として一生懸命取り組んでいます。学校だけの力ではこの難局を乗り越えていくことはできません。そのことを強く感じたのは体育大会の運営であります。運動場に多くの子どもや保護者がいる状況の中で、三密を避けて運営をするか学校も教育委員会も悩みましたが、PTAのご協力なくしては今回の運動会体育大会はできなかったと思っております。PTAの方々のマンパワー、学校と一体となって取り組む姿そのものが学校運営協議会の姿だと思います。

これからいろいろな課題を克服していかないといけませんが、この学校運営協議会をどのように育てていくか、また、教育委員会がどのように関わって子どもたちのより良い教育環境を提供していくことができるか、今後の課題にはなっていくが一步一步取り組みを進めていきたいと思っております。そのことによって少しでもコロナ禍における教育活動が充実していくと思っております。

清家委員 先生方が自信をもって、消毒の方法などポイントが解って行っているのか。また、これから寒くなるため、夏場と違った感染対策が必要になってくると思います。湿度についても、加湿器など学校に整備する予定はあるのですか。

感染予防のためマスク、手洗いなどを行っているので、今年はインフルエンザが少ないのではないと思っているが、これからコロナ対策でプラスになった面もあるので、子どもたちや先生方には頑張ってもらいたいと思っております。

橋本課長 寒くなる季節の感染対策については、報道によると寒い時期の換気対策が難しいと言われている。冬場の暖房については、エアコンは設置しているが、重信中学校以外はストーブを設置しているので、それを活用してもらおう予定です。

なお、換気はとても重要であるため、場合によってはエアコンの併用なども可能である旨周知していきたいと思っております。

新型コロナウイルスの具体的な対応策について、国から「学校における新しい生活様式」という通知も来ているが、先生方の過度な負担にならず、やるべきところはやるという学校的マニュアルを策定しているところです。

加湿器の件については、加湿機能はないが、オゾンによってコロナウイルス等を抑える効果のある空気清浄機を全普通教室に整備する準備をしています。インフルエンザ対策については、今年の2月、3月頃は、マスクを付けることによってインフルエンザにかかる人は少なかったというような報道もありました。今年も同じようにマスク・手洗い・うがい・換気をすることで、インフルエンザに関しても抑制できるかなと期待をしているところでもあります。

加藤市長 コロナ対策については、ウイズコロナ（同時進行）でこれからもコロナ禍の中で感染予防しながら教育を進めていかなければならないと思います。委員さんからいただきましたご意見を参考にして対応していきますので、よろしくをお願いします。本件に関しまして他に何かございますでしょうか。

本田委員 オンライン学習や予防策は、時間がかかっても改善されるだろうと思いますが、それだけでは解決にはならないだろうと思います。

学校現場では、対面で行う学習が一番効果的であることは間違いないと思います。大人はテレワークで済むと思いますが、やはり子どもたちは人との直接の対話なくしては成長が不可能であると思いますし、すべて解決するには教育現場或いは市の行政だけでは難しいのではないのでしょうか。

今、新しい生活様式が良いことのように言われていますが、新型の感染症が起きて新しい生活様式を最小限にできるような対応できるように国等で先見的な感染予防対策や治療のための医学的な研究、全国的な医療施設や医療関係者の充実が大切だと思っております。病院を無くしていこうとする動きがありますが、その辺りを国にも訴えていく必要があると思います。

加藤市長 今頂きましたご意見は、全国知事会や全国市長会でも議題に上がり、国に対して同じような要望活動を進めていくと聞いております。限られた予算の中で対応していくこととなりますが、冒頭で申し上げましたように、コロナ禍の中で子どもたちを守っていく、経済活動を粛々と進めていくことになると思います。

他にございませんか、それでは以上で2点目のコロナ禍における教育活動を終了させていただきます。

その他につきまして、委員の皆様、事務局から何かございませんか。ないようですので、このあたりで議事を終了したいと思います。

委員の皆様には、教育大綱の制定に合わせまして貴重なご意見をいただき、コロナ禍の教育活動についてもご意見いただき、ありがとうございます。引き続き教育委員会と市長部局とが連携しながら更に事業を進めていきますので、今後ともよろしくようお願い申し上げます。

それでは進行を事務局へお返しします。

4 閉会

池田局長 (閉会を宣す。)
(閉会 11時10分)

-